

令和元年度北本市立 北小学校 自己評価及び外部評価委員評価書(まとめ)

評価項目	No.	観 点	自己評価		外部評価		
			A+B /全体 (%)	自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	学校の取組に関する評価と今後の改善点等
組織運営	1	本校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫している。	100	○令和2年度からの新学習指導要領全面実施に向けて、年間指導計画の見直しを行った。 ○児童個々のアレルギー対応については、年度初めに、管理職、栄養士、養護教諭が保護者と面談し、個別の対応マニュアルを作成し対応している。	A	A	○新学習指導要領に伴い、ベテラン教員は経験に流されないように、また若手教員は個人の考えで安易に走らないようにお願いします。 ○年間指導計画に沿った教員個々の自己申告の作成と、その実施に向けた工夫・改善に努めてください。 ○目標の具現化を図るため、教育活動における問題の共有化による徹底した取組をお願いしてきましたが、今年度は方針策定から個別対応に至るまで、全体的に問題を共有化して機能的に取り組まれている状況がうかがわれます。今後とも広がる多面的な問題に対し、学校の方針に基づいた前向きな取組をお願いします。 ○年間行事計画に基づいた個別指導方針や月間計画はタイムリーに実行に移されHPを通して保護者や地域住民にも周知されていることは、開かれた学校のイメージアップにつながり、引き続き継続をお願いします。 ○マニュアルと同時に、教員一人一人に柔軟な対応が求められます。児童個々の心理状態や事故発生時の場や環境に応じた対応に心がけてください。 ○「組織的に生徒指導にあっている」という項目について、全般には十分行っていると思うが、自由記述や保護者の意見などから課題が残ると判断した。改善策としての記述もないため、両方Bとした。 ○全ての教員が共通理解の基で組織的に取り組むことは非常に難しいと思います。安易な言動をとらないよう心がけていただきたい。
	2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあっている。	100	対象者については、毎月アレルギー食材を明記した個別の献立表を配布している。 ○個に対する支援や対応については、生徒指導委員会、就学支援委員会、教育相談部会等を活用し、職員間で共通理解を図り進めている。 ○問題があった際は、管理職との報告・連絡・相談を迅速に行い、組織として対応している。 ○学校行事について、前年度の反省点を改善し、実施している。	A	A	
	3	本校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・掲示・活用し、組織的に、かつ迅速に対応している。	100		A	A	
	4	本校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあっている。	100		A	A	
基礎学力の徹底	5	児童生徒は、授業中、落ち着いて、学習内容を理解しようと姿勢が見られる。	94	○宿題については、学年のクラス間での差がないように、自主学習のとらえ方の差、家庭学習の手引きの利用、見届けについて同一歩調で指導にあっている。 ○今年度も「家庭学習week」を行った。次年度も継続し、家庭学習の定着、保護者の意識向上を図っていく。	A	A	○落ち着いた学習状況です。 ○若手教員の指導力の向上が急務だと思います。保護者には若手教員に対する厳しい評価が存在します。 ○学習規律の確保は、基礎学力の定着や学力向上の基礎基本です。今後も全教職員および小中の共通指導として充実していただきたい。 ○家庭学習については、本人の意欲は当然ながら、家庭の環境や境遇に起因する成果の違いも考えられ、同一歩調での指導にはご苦労が多いでしょう。そして保護者により一層の意識向上をお願いし、全体のレベルアップが必要と考えます。 ○宿題の量についての意見があったが、改善策としての示し方が読み取れない。 ○家庭学習の定着には保護者の理解と協力が不可欠です。「家庭学習week」や土曜補習を今後も進めてください。
	6	教員は、学力の向上を目指して日々の授業改善に努めている。	94	○学年会を活用し、教材研究や準備を行っている。(特に若手教員の指導力の向上にも有効)	A	A	
	7	基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあっている。	100	○職員は、ユニバーサルデザインを活用した授業を行うと共に、学びやすい環境作りを行っている。 ○3年生以上で個別の支援を要する児童を対象とした土曜補習を年間10回行い、児童のつまづきの解消を図っている。	A	A	
	8	教職員は、児童生徒に家庭学習を定着させるために、家庭に積極的に働きかけるなど工夫している。	100		A	A	
規律ある態度の育成	9	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	94	○クラスごとや宮内中学校生徒との挨拶運動を継続して行ったことで、自分から挨拶のできる子が増えた。 ○教師があいさつや言葉遣いの手本をみせる。	A	A	○校内でのあいさつ運動や宮内中との連携によるあいさつ運動等、今後も続けていただきたい。 ○挨拶できる子、できない子がまだいるようです。自ら挨拶できるように粘り強く指導してほしい。 ○挨拶は人と人とのつながりの基本であり、「人と会ったら、目を見て自らすすんで言葉を発する」ことが継続的に良好な関係を維持できる原点と考えます。この機をのがすと中々うまく事は進みません。先生方のお手本を習慣として体得させていただきたい。 ○10について保護者アンケートの結果もよくありません。家庭への啓発のしかた等、PTAとの連携による取組を工夫してみてください。
	10	児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に応じた正しい言葉遣いができる。	94	○「ハッピーあいさつウィーク」の取り組みが良かったので、継続していく。(保護者のコメントには良いものが多かった。保護者の意識も当初より高まっている。) ○学校スタンダード(教師用)を作成し、共通理解のもと指導にあっている。	A	A	○人権教育及び道徳の充実、特に実践的態度の育成に今後も努めてください。 ○先生方が皆さん児童に対し、規範意識をもって指導されている事は素晴らしい事です。そしてその為には世の中の変化を十分に感じ取った知識の進化も大いに期待されています。 ○学校スタンダード(教師用)は良い取組だと思います。共通理解で指導をお願いします。
	11	児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合っ学校生活を送っている。	100		A	A	
	12	教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	100		A	A	
健康・体力	13	児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる。	100	○児童の外遊びを活発にするため、来年度からロング昼休みを月1回取り入れる。 ○夏・冬休みの体づくりは、学年でバラバラに出すよりも、学校統一で一つの物に取り組むようにした方がよい。今後実施に向けて検討していく。(例)パワーアップゼンゴ	A	A	○ロング昼休みに賛成です。外遊びの奨励をお願いします。 ○縄跳びカードは季節的なものでしょうか。
	14	本校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようと努力している。	94		A	A	

保護者・地域・異校種間連携	15	自校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。	94	○月に1回程度、学年ごとにパトロールを兼ねて下校を見守る。(学年で設定する) ○授業参観や持久走大会は、日程が重ならないように中学校や幼稚園と事前に調整を図る。	A	A	○地域の方々に感謝です。 ○ホームページは北小関係者以外の人たちも眼にする情報源です。更新遅れや足並みの不揃いは学校の信用に関わります。 ○幼保小連携では、森の詩幼稚園・ふじ幼稚園、深井保育所等、同一歩調で連携できることを期待します。 ○小中連携については、今後も宮内中との綿密な打ち合わせのもとで推進してください。
	16	自校は、各種たよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	100		A	A	
	17	自校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロールや声かけ運動などの計画を立てて定期的の実施している。	94		A	A	
	18	自校は、異校種間(幼保小、中高等)の連携を積極的に推進している。	94		A	A	
学校安全	19	安全管理計画が事故防止、非常災害対策を念頭に立てられ、実際に機能している。	100	○児童の登下校については、見守り隊などの地域の方の協力があって、大きな事故がなかった。 ○安全主任が中心となり、地震、火災、不審者、火災訓練では消火訓練を実施した。様々な場面を想定した訓練を行った。 ○避難訓練は様々な天候・状況を想定した場合の対応策を考えておき、避難訓練の際に児童にしっかりと説明をする場を設ける。 ○校地内の安全点検は、毎日の見回り、定期的な点検を行い、早期発見、早期対応を行っている。	A	A	○登校時、列からはみだして歩いている児童を見かける。 ○学校内における安全管理は具体的に実行されていると思います。自然災害の肥大化はいつ各自にふりかかるかわかりませんが、基本的行動の重複を身につけるよう指導いただくと共に学校外での地域の方との連携についても年に1～2回の打ち合わせ等もご検討願いたい。 ○「自分の身は自分で守る」ことを繰り返し指導してください。安全だけは常に100点満点でいたいものです。 ○安全点検は大人の目線・管理者の目線だけでなく、児童の目線にたった点検に心がけてください。マンネリ化が一番怖いです。
	20	安全主任が中心となって定期的に安全点検が行われている。	100		A	A	
	21	全教育活動の中で安全指導が意図的・具体的に実践されている。	100		A	A	
	22	交通安全指導が定期的の実施されている。	100		A	A	
生徒指導・教育相談	23	児童一人ひとりをよく理解し、個々の児童に応じた生徒指導がなされている。	100	○生徒指導委員会では、問題点などは、紙面での報告のみにし、担任が細かく経緯などを記述する。 特に困っている児童についての手立てなどを話し合う。(ケース会議)指導などについて他の先生方からアドバイスをいただく。 ○生活目標の発表で委員会担当としたことは良かった。1月の始業式の発表は児童集会と重なるため、始業式は担当の先生から目標の発表のみにする。	A	A	○児童理解の基本は、教師と児童・児童相互の人間関係にあります。児童と共に成長する教員集団でいてください。 ○紙面の報告では児童が表現できない部分もあると考えられ、担任の面談などで得た状況を記述することは良いことです。最近教育委員会での扱ひも報道を聞くたびに子供の目標に立って、親身になって考えていないことが多すぎます。その点、担任の先生は子供に近く、一番頼りにされているので相談活動を積極的に活用していることは望ましいと思います。 ○学校の使命は児童に学力・規律・体力をつけさせることですが、その根底にあるのが生徒指導・教育相談だと思います。若い教員に力をつけてあげてください。 ○SNSの使い方が社会問題となっています。外部講師を招聘した学習や職員研修・保護者への啓発等、計画してはどうでしょうか。
	24	定期的アンケート活動を実施するとともに、結果を生徒指導・教育相談活動に積極的に活用している。	100		A	A	
	25	教育相談活動では保護者や外部機関との連携を図りながら、適切に行われている。	100		A	A	
来年度の重点目標(共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて)							
○あいさつの指導は引き続き必要。子供の言葉遣いが悪い時には指導をし、教師自身も言葉遣いに気をつけることが必要。 ○SNSの使い方などは、来年度保護者を巻き込んでの講習会を全学年児童対象で行っていく。				○全体的に落ち着いた学校だと思います。 ○働き方改革が教員にとって吉とでるか凶と出るか。自分の身体と相談しながら、児童のために頑張っていたきたいと思います。 ○「保護者からの意見」の根底に何ががあるかを考えることが大切だと思います。学級王国にならないようにお願いします。 ○挨拶や言葉遣いは生活の原点であり、その場その場での指導を継続的に行うことが必要だと思います。特に最近は日本語が乱れており、人間関係を良好に保つために尽力をお願いします。 ○左記2点については適切と考える。加えて、家庭学習の在り方(指導・支援・手引きの使い方)なども重点化すると良いのではないかと。 ○挨拶は、する子、しない子がいるので、粘り強く引き続き指導が必要。 ○SNSに対しても保護者に対するネットトラブル注意報のように直接伝える方法が有効だと思います。今後も学校だけでなく、関係者を幅広く巻き込んで、事案の改善や進化をお願いします。			

北本市立	学校	外部評価委員(敬称略)	外部評価委員会実施日
委員長	米田 久仁夫	委員 磯崎 雅彦	第1回 令和1年7月4日(水)
副委員長	本間 静治	委員 横田 敏雄	第2回 令和1年12月 5日(木)
		委員 加藤 秀樹	第3回 令和2年 2月17日(月)

※「自己評価の適切さ」について

A:適切な評価である B:ほぼ適切な評価である C:やや不適切な評価である D:不適切な評価である

※「改善に向けた取組の適切さ」について

A:十分な効果が期待できる B:ほぼ十分な効果が期待できる
C:あまり効果が期待できない D:効果が期待できず改善を要する

※学校の取組に関する評価と今後の改善点等について

- ・評価項目ごとの取組状況に対する評価や今後に向けての要望等を記入する。
- ・自己評価書の項目を網羅的に評価するのではなく、「自己評価の高かった(低かった)項目」や「今年度の重点的な取組」に絞って記入する。

※その他全体的な留意点

- ・外部評価書は1枚にまとめる必要はありません。(2枚以上可)
- ・共通項目と学校独自の項目を別様に作成してもかまいません。
- ・学校独自の評価項目、評価項目数は、各学校で定めてください。
- ・外部評価委員会の総評欄は、共通項目、学校独自の項目の両方を踏まえての総評を記入してください。